

第5回 山鳥坂ダム環境検討委員会の 意見、質問と補足事項

国土交通省 四国地方整備局
山鳥坂ダム工事事務所

第5回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年6月6日開催）の意見、質問と補足事項（1）

No.	分類	指摘事項	第5回委員会における回答の要旨	補足事項
1	(環境) 生物	テンの取り扱いについて、第4回委員会の後精査した結果、猛禽類と比較して繁殖形態、個体群の構成、個体群の内部構造において不明な点があることより、上位性の注目種とするには時期尚早であると判断した。	—	—
2	環境 生物	クマタカについて、平成8年から13年のような事態が来年起こったら（ダムサイトにつがいが戻って来たら）どうなるのか。また、いつ頃までを判断の時期と考えるのか。	今でもモニタリング調査を継続しており、いつ帰ってきて確認はできる。判断時期については、準備書においては、次回または次々回の委員会の中で確認できるかどうかはその判断になると考えている。	—
3	(環境) 大気	大気質について、予測地点と調査地点は同じ場所を示すと考えてよいか。	予測地点と調査地点の言葉の使い方は基本的に同じである。	—
4	(環境) 大気	大気質について、鹿野川地区の予測地点は集落の中心からダム側にはずれた地点と考えてよいか。（予測地点として適切か）	鹿野川地区の予測地点は地区内で一番事業実施区域に近い場所を選定している。影響が最も大きい場所と考えられ、予測地点として適切であると考えている。	—
5	(環境) 大気	鹿野川地区の予測地点では交通量調査が実施されておらず、遙か上流の旧河辺村でしか行われていないがこのデータをどう扱うのか。	粉塵と振動については旧河辺村に行く道路でも測定しており、それをもとに予測することになると考えている。	鹿野川地区を含む全ての予測地点では、交通量、騒音、振動について調査しており、予測もこれらの結果に基づいて行う。 (調査地点は方法書に記載)
6	(環境) 大気	交通量に関して、工事用車両だけでなく、可能であれば工事関係者の通勤車両も含めて評価していただきたい。	通勤車両については現在考慮していないが、既存ダムの事例など参考にして評価していきたい。	—
7	(環境) 生物	もし、本体工事に伴い砂防ダムもできるのであれば、砂防ダムによる影響も含めて評価して欲しい。	今のところ、砂防ダムを造る計画はない。	—
8	(環境) 生物	クマタカについて、重要種としての調査を行う場合、船戸川流域にも行って調査するのか。	調査範囲が船戸川流域にも入っており、調査・予測・評価を行うこととなる。	猛禽類の重要な種の調査地域には、行動圏の大きさや地形等を考慮して船戸川流域も含む地域としている。 予測地域は、事業により影響を受けるおそれが認められる地域であることから、調査地域のうち河辺川流域部分とする。
9	(環境) 生物	上位性注目種の選定について、クマタカの飛翔の範囲や頻度、ハンティングの状況などを総合的に踏まえ検討を行うことという知事意見に対して、事業者側の回答をより具体的にされた方がよいと考えられる。	クマタカの生態飛翔行動（巣材や餌運び、求愛行動など）も把握しているのでそれを踏まえて総合的に検討するという回答に修正したい。	—

第5回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年6月6日開催）の意見、質問と補足事項（2）

No.	分類	指摘事項	第5回委員会における回答の要旨	補足事項
10	(環境) 生物	ヤイロチョウの調査について、繁殖期の最盛期には絶対に近付かないこと。調査員は決められた場所できちんと調査を行っていると言える。	—	—
11	(環境) 生物	ミゾゴイは四国では数が少なく、非常に貴重であり、ヤイロチョウは重要種の中でも最も重要な種であることを念頭におくこと。	—	—
12	(環境) 水	植松堰では現在も取水が行われているのか。	取水は行われている。	—
13	(環境) 生物	生態系の予測について、「その地域の生態系が将来にわたって現在と同じ様態を保てるか」という書き方よりも「現在の生態系にどのような影響を与えるか」とした方がよいのではないか	全く同じ様態を保つというのは無理があるので、指摘を踏まえて修正したい。	—
14	(環境) 生物	「年度によって確認された種数に大幅な違いがある」という知事意見に対して「調査対象、調査時期、調査地点及び経路の違いがあるため」という回答は調査の信頼性が疑われるため、その変動幅に対して信頼度がどのくらいあるのかということを明確にする必要があるのではないか。	年度による確認された種数の違いについて検討し、その理由も加えて表現を訂正したい。	—
15	(環境) 全体	知事意見及び住民意見が非常に数多く出ているが、それらを踏まえた方法書の修正部分は具体的にどこなのか。	準備書で明確にして欲しいとか適正に記述することという意見に対しては今後準備書の作成にあたり工夫して対応します。環境影響評価の項目とか手法の修正については植物の4種類を重要な種に追加することを考えている。	—
16	(環境) 全体	資料の出し方など事業者として工夫する必要があるのではないか。今のままでは意見を出した人が事業者の考え方を読んでも納得されるか疑問である。議論が集中しているクマタカとヤイロチョウに関して、重要種の中の1種ではなく、項目を独立させるぐらいの対応は必要ではないか。	準備書の公告・縦覧、住民への説明会という各段階においてできるだけわかりやすく努めていきたい。そのときは手法だけでなく、結果もセットで説明することになるので、住民の方にとってはその方が理解できると考えている。	—

第5回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年6月6日開催）の意見、質問と補足事項（3）

No.	分類	指摘事項	第5回委員会における回答の要旨	補足事項
17	(環境) 全体	事業者の考え方の中で、マニュアルに基づいているからとか、アセスのこの部分に準じているという表現は意識的に避けた方がよいと考える。必要に応じてマニュアルが作られたときの考え方を示さないとう理解が得られないのではないか。	—	—
18	(環境) 生物	動物の重要種の注目すべき生息地において昆虫、鳥類その他いろんなものが少なくなってくる現象があるので、そのようなことも調査して欲しい。	—	—
19	(環境) 水	将来、植松堰は廃止されるのか。廃止されるのであれば、水質予測時に影響があるのではないか。	ダムの供用後に植松堰の取水は廃止されます。水質については、取水の廃止も前提条件として予測を行うとともに準備書には前提条件を明示する。	—
20	(環境) 生物	工事による環境の攪乱が原因で外来生物の侵入や特定の種が大発生する可能性があるが、そのようなことに対する対策は考えているのか。	現在の環境がどうなるかということでもしか評価が困難である。指摘された事項に関しては、モニタリング調査や対策をダムの完成後も含めての全体の計画の中で検討していかなければならないと考えている。	—